

2023年6月7日
平田機工株式会社

平田機工株式会社 2022年度決算説明会 質疑応答（サマリー）

（2023年5月25日開催）

【説明内容】

- ・2022年度決算通期業績
- ・2023年度通期業績見通し
- ・中期経営計画（2022～2024年度）進捗報告

【質疑応答】

Q1	2022年度は営業利益が期初の予想から大幅増となったが、研究開発費の予実乖離が大きな要因だと認識している。2023年度は研究開発費の予想がよりリーズナブルになった印象だが、予算作成プロセスに変化があったのか。
A	2022年度に植物遺伝資源関連の研究開発テーマの精査と絞り込みを行い、設備投資計画とともに2023年度予算に反映している。今期の予算実行にあたっては、共同研究開発等の契約を締結している相手国の取組み進捗に起因する不確実性は残るが、概ね予算に即した実行を見込んでいる。
Q2	自動車の直近の営業利益率は中期経営計画の目標である5%を上回っているが、利益率改善の主な要因は何か。また、目標の上方修正の可能性について聞きたい。
A	引き続き水準での引き合いがあり、利益率の高いリピート案件を中心に受注していることが主因と考える。今後、為替影響で利益が上振れする可能性もある一方、成長分野と位置づけるバッテリー分野での受注拡大も目指しており、利益率目標は現行のままとする。
Q3	有機ELについて、G8サイズへのシフトに伴う設備投資の意思決定が行われる局面にあると考えるが、受注への寄与は予算に織り込まれているか。
A	お客様の投資計画に関する言及は控えたい。仮に当社が受注できた場合は万全の生産体制で臨みたい。

Q4	米国の IRA 法案が EV の受注に与えた影響についてどう考えるか。
A	当社が米国インフレ抑制法（IRA）の影響を直接受けることはないが、米国において EV 関連の設備投資が増加することで当社の受注機会が拡大する可能性はある。
Q5	中期経営計画の進捗資料に EFEM が取り上げられている理由を聞きたい。
A	EFEM※は既に多くの受注実績がある当社の主力製品であり、標準化による収益性強化に注力している製品でもある。その進捗については関心も高いと判断し取り上げることにした。 ※EFEM（Equipment Front End Module） 容器とプロセス装置間において、クリーンな環境でウェーハおよびパネルの受け渡しを行う装置
Q6	内製化による原価率低減の取り組みは今後も進めていくのか。また、内製化による利益改善額はどの程度か。
A	内製化の推進は原価率低減に向けた施策の一つであり、生産状況を睨みながら今後も実施したい。なお、内製化に起因する利益の具体的な改善額は開示していない。
Q7	受注の予想は開示しているのか。EV、ウェーハ搬送、有機 EL といった分類まであれば聞きたい。
A	受注予想については全体、セグメント別ともに開示していない。ただし、自動車分野では EV を中心に引き合いは引き続き好調で、一定水準の受注が期待できる。一方、半導体は市場に減速感あるものの、2023 年度後半以降で受注が回復すると見込んでいる。生産能力の増強（生産スペースの拡張、人材の獲得・育成）に引き続き取り組みたい。
Q8	半導体分野について、生産能力を数字で開示することは可能か。
A	具体的な数字は開示していない。
Q9	資料に「半導体市場調整局面の当社への影響は限定的」とあるが、その背景は何か。現在の半導体市況が今期の受注高に与える影響をどのように見ているか。
A	2023 年度期初時点での受注残額、下期以降の受注の回復見通し等を総合的に勘案し、当社の今後の受注に与える影響は限定的と判断している。

Q10	説明の中で製品に対する顧客評価が高いという話があったが具体例を聞きたい。
A	コロナ禍での行動制限により、競合他社の生産が遅延する中、当社は DX の活用により納期通り対応することができた。当社では 3D CAD と VR を組み合わせた CAD VR により、仮想空間上で製品の干渉確認や動作試験を行うことができる。製品品質に加え、生産工程でのこうした取り組みがお客様から高い評価を得ていると考える。
Q11	CAD VR 活用によるコスト削減効果はあるか。
A	複数の工程をコンカレントに進めることができるなど、特定の工程への負荷集中を回避できるため、生産リードタイムの短縮に効果を上げている。具体的な削減コストについては開示していない。
Q12	中期経営計画の自動車、半導体の売上高 400 億円について、より詳細な区分で分けた場合どうなるか。自動車の売上は 400 億円が限界なのか。
A	詳細に区分した情報は開示していない。セグメント内の構成比は 2022 年度と大きくは変わらないと考える。生産拡大に向けた投資を引き続き行い自動車の売上拡大を図るが、短期的には 400 億円が一つの目安になると考えている。
Q13	利益に対する為替の影響があれば聞きたい。
A	海外の大型案件についても可能なものは円建て受注を行う一方、外貨で受注する案件についても損益認識の精度を高めるために都度為替予約を行っている。一般的に、外貨受注案件については円安が進むと競争力が増すと認識している。
Q14	中国の半導体市場についての環境認識と計画などについて聞きたい。
A	中国での半導体市場は今後さらに拡大すると見込んでいる。現在、中国国内にある 2 つの子会社を活用し、中国市場に投入する半導体関連製品を現地で製造、販売することを計画している。

以上